



2010年3月31日発行



## 公開講座「健やかに生きよう」を開催

平成21年11月6日(金)に、本学大講義室において公開講座「健やかに生きよう」が開催されました。

講座1は、本学看護学科 松村恵子教授により「あなたとわたしの素敵な生涯発達」―大切なこと一緒に語り合きましょう― という演題で、細かいことは気にせずにおおらかに生きてゆくことの大切さについて、

講座2は、本学臨床検査学科 平川栄一郎教授により「わかりやすい がんの話」―予防と検診― という演題で、さまざまながんの原因と予防法、検診の大切さについて、講演がおこなわれました。

受講者は101名と、本学公開講座始まって以来最多の方々に来ていただき、

“わかりやすい説明で、いい勉強になり今後の役に立った”、“スライドと資料により、講義内容がわかりやすく良かった”、“がんについて正しい知識が増えてよかった”等々、好評のうちに終了いたしました。

今後も、心と体の健康に関する講座を続けていきたいと考えています。平成22年度は、8月下旬に香川県社会福祉総合

センター（高松市番町）で、11月初旬に保健医療大学（高松市牟礼町）で、おこなう予定にしています。詳しいことは、ホームページなどでそのつど掲示させていただきます。よろしければぜひ一度受講してください。



## 教育講演会（看護学科）

平成22年1月22日(金)に、看護学科主催の教育講演会が開催されました。「生きる速さとカウンセリング」と題して、26年間学生相談カウンセラーをつとめられた小柳晴生先生（放送大学客員教授、前・香川大学教育学部教授）が講演されました。

心の問題の増加は、生きるスピードが速くなったことから起きている。それに対し「自分とゆっくりつきあう時間」の確保と自分が「どう生きるか」という哲学や、生きる方向性を探すためのアンテナとなる感性を磨くこと、そして、自分にいるものといらないものを判断し、「小さく生きる、ゆっくり生きる」というライフスタイルの確立など先生のご経験を踏まえた内容で、参加者一人ひとりが自分の生き方を見直す有意義な機会となりました。



## 「高校生サイエンスキャンプ」を開催して

最先端の科学や医療に興味がある地元高校生は多いのではないかと推察しますが、それを実際に学ぶ機会を得ることは少ないと思います。香川の戦略的3大学連携支援事業では平成21年8月に、徳島文理大学香川薬学部、香川大学医学部、ならびに本学臨床検査学科が共同で「高校生サイエンスキャンプ」を企画、実施しました。平成21年8月16日は本学で開催され、希望した地元の高中生20名が参加しました。「ヒトの体を見てみよう」というテーマで、第一部は臨床検査学科の今井正准教授が心臓・腹部超音波検査実習を、第二部は、真鍋紀子准教授が血液学実習を担当されました。学生達はたいへん熱心に取り組みました。参加した学生達のアンケート調査で95%の学生が生命科学への関心が高まったと答えており、このサイエンスキャンプを通じて、科学や医療に興味を抱き、将来への夢がふくらんだのではないかと思います。次年度も引き続きこの企画を実施する予定ですので、是非ご参加ください。



臨床検査学科 教授 新見 道夫

## 橄欖祭（大学祭）

10月17日に第10回橄欖祭が開催されました。

今年は「芽〜K I Z A S H I〜」というテーマの下、第10回という節目の年でもあるため、学校全体、学生それぞれが今後に向けてさらにステップアップしていけるように、学生が主体となり協力し、準備や当日の運営などを行いました。

新型インフルエンザの流行もあり、先が見えずにどうなってしまうか不安の中準備を進めてまいりましたが、学内では流行することなく、当日は雨の予報でしたが、学生の熱気で快晴の空へと変わり、無事に開催することができました。

当日は1・2年生による学科展や各学年・サークルによる模擬店、地域の方々によるステージや展示などの毎年恒例のイベントに加え、10周年ということもあるので記念品となるタオルの作成も行いました。また、本学では開学以降初めての芸人さんによるお笑いライブも行われ、盛大な大学祭となりました。昨年からのミニオープンキャンパスでは、先生方による個別説明や学生による学内案内なども行われ、高校生や地域の方など、本当に多くの方々にご来場いただくことができました。

第10回橄欖祭も実り多い大学祭とすることができ、香川県立保健医療大学としてもさらに飛躍していきたいと考えておりますので、第11回橄欖祭も後輩に期待し、ぜひ皆様にもご来場していただきたいと思います。

最後になりましたが、第10回橄欖祭を開催するにあたって、ご協力、ご支援くださいました多くの方々ならびに企業をはじめとする各所団体の皆様には心よりお礼申し上げます。

大学祭実行委員長 臨床検査学科2年 大坪 和弘



## 卒業式 平成22年 3月15日

—自由からの卒業、そして社会へ—

本当にあつという間の4年間でした。

今こうして大学生活を振り返ってみると、楽しかったことや辛かったことなど様々な出来事があり、思い出の中にはいつも友達やクラスメイト、みんなの存在がありました。

臨地実習や卒業研究など苦しい時期も多くありましたが、苦難に負けることなく1つずつ乗り越えてこられたのは、優しい先生方、いつも励ましあい助け合ってきたクラスメイトがいたからこそだと思います。

これから私達は、それぞれが選んだ道を歩いていくことになります。時には疲れて休んでしまうことがあるかもしれません。時には迷い、道を見失うことがあるかもしれません。そんな時には、この大学で過ごしてきた光景を思い出し、一歩ずつ踏み出していきたいと思います。

本当にあつという間の4年間でしたが、様々な出会いと経験をありがとうございました。

看護学科 4年 工藤 光



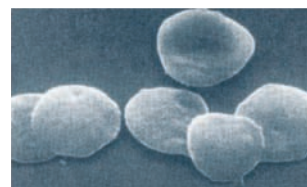
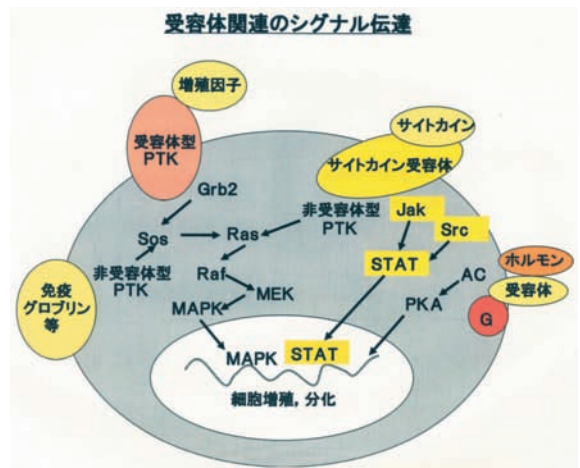
## 研究紹介

—血液細胞を科学する—

臨床検査学は、生体内でおこる様々な反応を科学的に分析し、詳細な生体内情報を提供する医学の一分野です。その中で、検査血液学は赤血球・白血球・血小板といった血液細胞の数・形態異常・機能異常、また血液凝固・線溶に関わる検査学であり、白血病、血栓などの血液疾患の診断および治療に血液学データは必須のものです。

私の基礎的な研究は、「細胞増殖」に関わるシグナル伝達の解明と遺伝子発現であり、恩師との共同研究として取り組んでいます。現在は、株化した白血病細胞の一部に特異的に発現する蛋白に対する抗体の精製を行い、蛋白の確定、遺伝子発現へと進みつつあるところです。この研究が進めば、赤芽球系幹細胞の純化に一步が踏み出せるかもしれません。

また臨床的な研究では、「血小板の活性化」をテーマとしています。静止型血小板と活性型血小板の電子顕微鏡写真を図示しました。血小板の活性化は血栓症や糖尿病などで増加することが報告され、従来の検査法よりも基礎の血管病変や血栓形成を反映するマーカーであると期待されているものの、感度・精度・簡便性の点で、普及には至っていない現状です。血小板に関するメカニズムが分子レベルで解明されつつあり、検討項目は山積みですが、より有用な臨床応用方法を求め、模索しています。



静止型血小板



活性型血小板

臨床検査学科 准教授  
真鍋 紀子(検査血液学)

## 図書館便り

図書館利用における学習支援のひとつとして、毎年、学年に対応したガイダンスを実施しています。OPAC(情報検索端末)の使い方や本の探し方、予約やリクエストなどサービスについての説明や、データベースを使った文献検索の方法、ILL(相互利用サービス)の申込み方法などを説明しています。

今年度は9月に、教員と大学院生を対象に、外国語の看護系データベースのガイダンスを版元の講師をむかえて実施しました。また、2月には次年度の卒業研究にむけての準備が進められるよう、学部生を対象に、図書館職員が情報処理室で説明・演習を実施しました。



# サークル紹介

## 手話サークル

私たち手話サークルは、現在10名で、週1回1時間程度、学外から手話の先生を招いて、活動しています。日常的な場面や医療の現場で用いる会話などを、手話を使って表現できるよう勉強しています。学年関係なくみんなが仲良く、先生も1人1人に丁寧に教えてくださるので、アットホームな雰囲気のなかで自然と手話を身に付けていくことができると思います。日々手話を学んでいくことで、部員それぞれが、相手の手話表現が分かるようになっていたり、ゆっくりですが自分の思いを手話で伝えることなどもできるようになっています。

看護学科 3年 久保 真莉子



# 健康メモ

## 子宮頸がん

### 予防ワクチンの接種が、日本でも可能になりました。

日本では毎年約12,000人の女性が子宮頸がん罹患し、約3,500人の尊い命が奪われています。子宮頸がんは近年20代～30代で急増しており、これから結婚や出産を迎える年代にとっては特に深刻です。

子宮頸がんは、発がん性のヒトパピローマウイルス (HPV) というウイルスの持続的な感染が原因となって発症します。HPVは性交経験がある女性であれば誰でも感染する可能性があります。そのため、子宮頸がんの原因となるHPVの感染を防ぐことを目的にワクチンが開発され、既に欧米をはじめとする世界100ヶ国以上で発売されています。この度、日本でもこのワクチンの接種が可能となりました。

子宮頸がん予防ワクチンは子宮頸がんから多く見つかるHPV16型と18型の感染を防ぎます(図1)。本ワクチンは初回接種、初回接種から1ヵ月後、初回接種から6ヵ月後の3回、腕の筋肉内に注射します。3回接種することで十分な予防効果が得られるため、きちんと最後まで接種することが重要です。大人になって感染してしまってから接種をするよりも、感染す

る前に接種する方が有効であることから、アメリカ、イギリス、ヨーロッパなどの諸外国では9～16歳の女兒に対して優先的に接種が行われています。日本でも、日本産科婦人科学会、日本小児科学会、日本婦人科腫瘍学会が、11～14歳の女兒に対して優先的に接種することを勧めています。また、発がん性HPVは、機会があれば何度でも感染することから、15～45歳までの女性に対しても接種することを勧めています。なお、本ワクチンは全ての発がん性HPVの感染を防ぐものではないため、ワクチン接種後も20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん検診を受診することが必要です(図2)。

本ワクチンを接種した後に、注射した部分が腫れたり痛むことがあります。このような痛みや腫れは、体内でウイルス感染に対して防御する仕組みが働くために起こりますが通常は数日間程度で治ります。尚、ワクチン接種後に気になる症状があれば、担当医にご相談ください。

看護学科 教授 秦 幸吉

HPV 16型と18型の感染を防ぐ  
子宮頸がん予防ワクチンがあります。

#### 子宮頸がん予防ワクチンの効果

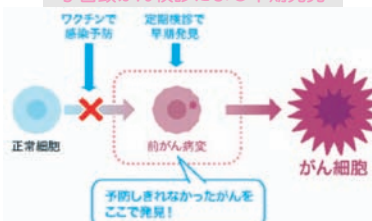
- 子宮頸がん予防ワクチンは、特に子宮頸がんから多くみつかるHPV 16型と18型の感染をほぼ100%防ぐことができます。
- このワクチンの予防効果は、これまでに6.4年続くことが確認されていますが、今後も経過観察を続けることにより、さらなる延長も期待されています。



図1

子宮頸がんはワクチン接種と定期的な検診によって予防できます。

#### 子宮頸がん検診による早期発見



子宮頸がんは、ワクチンと検診で防げるんです!



図2

今後の  
行事予定

4月6日(火) 入学式

オープンキャンパス

公開講座「健やかに生きよう」

7月～8月(予定)

8月下旬と11月初旬(予定)



KAGAWA PREFECTURAL COLLEGE OF HEALTH SCIENCES

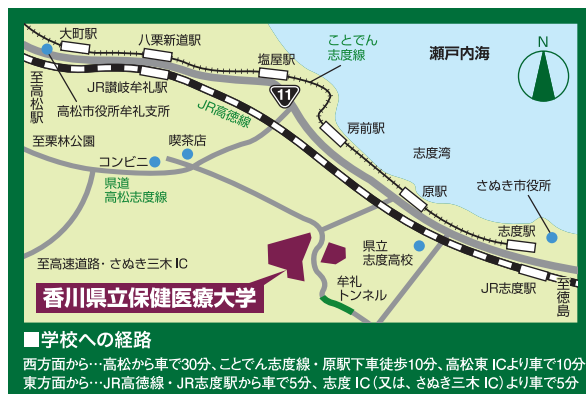
# 香川県立保健医療大学

〒761-0123 香川県高松市牟礼町原281-1

Tel:087-870-1212 Fax:087-870-1202

E-mail: hokeniryodaigaku@pref.kagawa.lg.jp

ホームページ: <http://www.pref.kagawa.lg.jp/daigaku/>



#### 学校への経路

西方面から…高松から車で30分、ことでん志度線・原駅下車徒歩10分、高松東ICより車で10分  
東方面から…JR高徳線・JR志度駅から車で5分、志度IC(又は、さぬき三木IC)より車で5分